

京都市の 水道・下水道を 守り続けます！

今後10年間の水道・下水道の計画を策定しました！

京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホタルの澄都(すみと)くん



京都市上下水道事業経営ビジョン(2018-2027)
京(みやこ)の水ビジョン -あすをつくる- リーフレット版

平成30年3月 京都市上下水道局

きょう

基本理念

京の水から あすをつくる

水需要の減少や施設の老朽化など 様々な課題を解決する必要があります

京都市では、これまでの10年間、「京（みやこ）の水ビジョン」（2008-2017）に基づき、老朽化した水道配水管の更新や、大雨からまちとくらしを守るための浸水対策などの事業を着実に進めてきました。

一方、節水型社会の定着や人口減少により水需要が減少する（収入が減少する）とともに、管路や施設の老朽化が更に進む（必要となる事業費が増大する）など、今後の経営環境は大変厳しい見通しとなっています。

また、地震や大雨等の災害への備えや、多様化するお客さまニーズへの対応、これまでに培ってきた技術の継承など、事業を取り巻く様々な課題を着実に解決していく必要があります。

課題を一つ一つ しっかりと解決 していきます！

3つの視点から 「目指す 将来像」 を実現します！

50年、100年先の将来にわたって 水道・下水道を守り続けます！

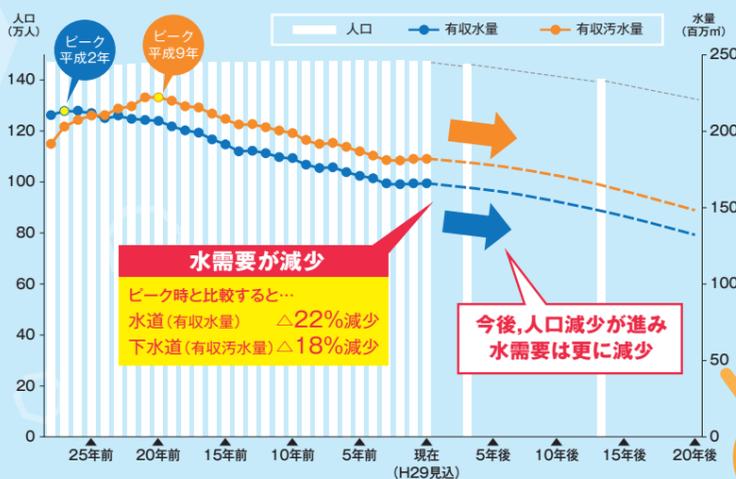
厳しい経営環境の中だからこそ、水道・下水道の基本的な役割をしっかりと果たすことに重点を置きます。そして、長期的な視点かつ幅広い視野で「目指す将来像」を描き、その実現を目指します。

そして、基本理念「京の水からあすをつくる」に基づき、3つの視点と9つの方針から、市民や水道・下水道に携わる事業者の皆さまと一体となって、取組を推進します。

3つの視点と 9つの方針で 取組を進めます

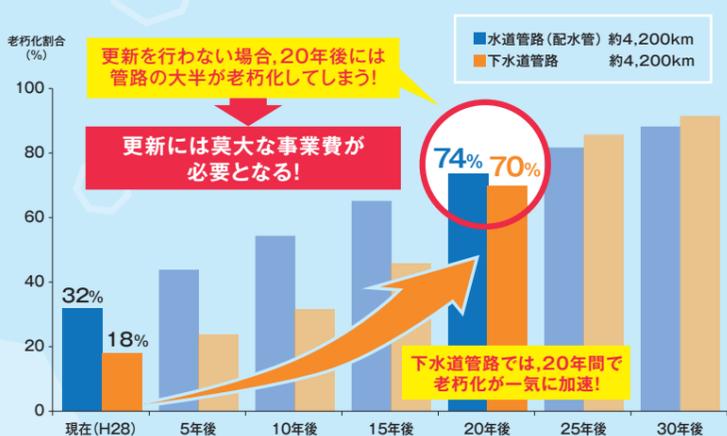
水需要の減少（収入の減少）

本市の人口・水需要の推移と見通し



管路・施設の老朽化（必要な支出の増大）

水道・下水道管路の老朽化の見通し（仮に今後更新を行わなかった場合の試算結果）



視点1 京の水をみらいへつなく



視点2 京の水でこころをはぐくむ



視点3 京の水をささえつづける



視点1 京の水を 未来につなぐ

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

市内の約半分の給水量を担う新山科浄水場の導水トンネルを
更新・耐震化

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

新山科浄水場
新山科浄水場導水トンネル(既設)
新山科浄水場導水トンネル(新設)
上り取水池
琵琶湖疏水
日ノ岡取水池
シールドマシン

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

地震等災害時においても原水をこれまで以上に安定的に取水するため、磁上取水池(琵琶湖疏水)と新山科浄水場を結ぶ導水トンネルを新たに布設し、耐震化!

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

配水管更新をベースアップ!
老朽配水管の解消率

年次	解消率
2017	23%
2022 5年後	47%
2027 10年後	76%

耐震性の劣る管路を「老朽配水管」と位置付け、その解消に向けて、耐震管への更新をベースアップさせて進めます。

方針③ きれいにする

下水をきれいに川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

下水の地理水質の向上や水環境保全センター施設の改築更新・耐震化のほか、合流式下水道(汚水と雨水を同じ管で流す方式)の改善対策を進めます

2023年度に合流式下水道改善率100%を達成

対策前	2017年度	2023年度
合流式下水道	改善率 63%	改善率 100%

削減
分流通と同等

河川に出る汚濁量

当面の目標

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

雨水幹線の整備等による浸水対策の推進

市内中心部の新たな大動脈となる幹線「鳥羽第3導水きよ」の整備等により、雨水整備率を向上させます。

雨水整備率
10年確率降雨対応

年次	整備率
2017	28%
2022 5年後	33%
2027 10年後	43%

北部エリア
本業庁舎
(2017年7月開庁)

南部エリア
本庁舎
(2022年度)

方針⑤ いどむ

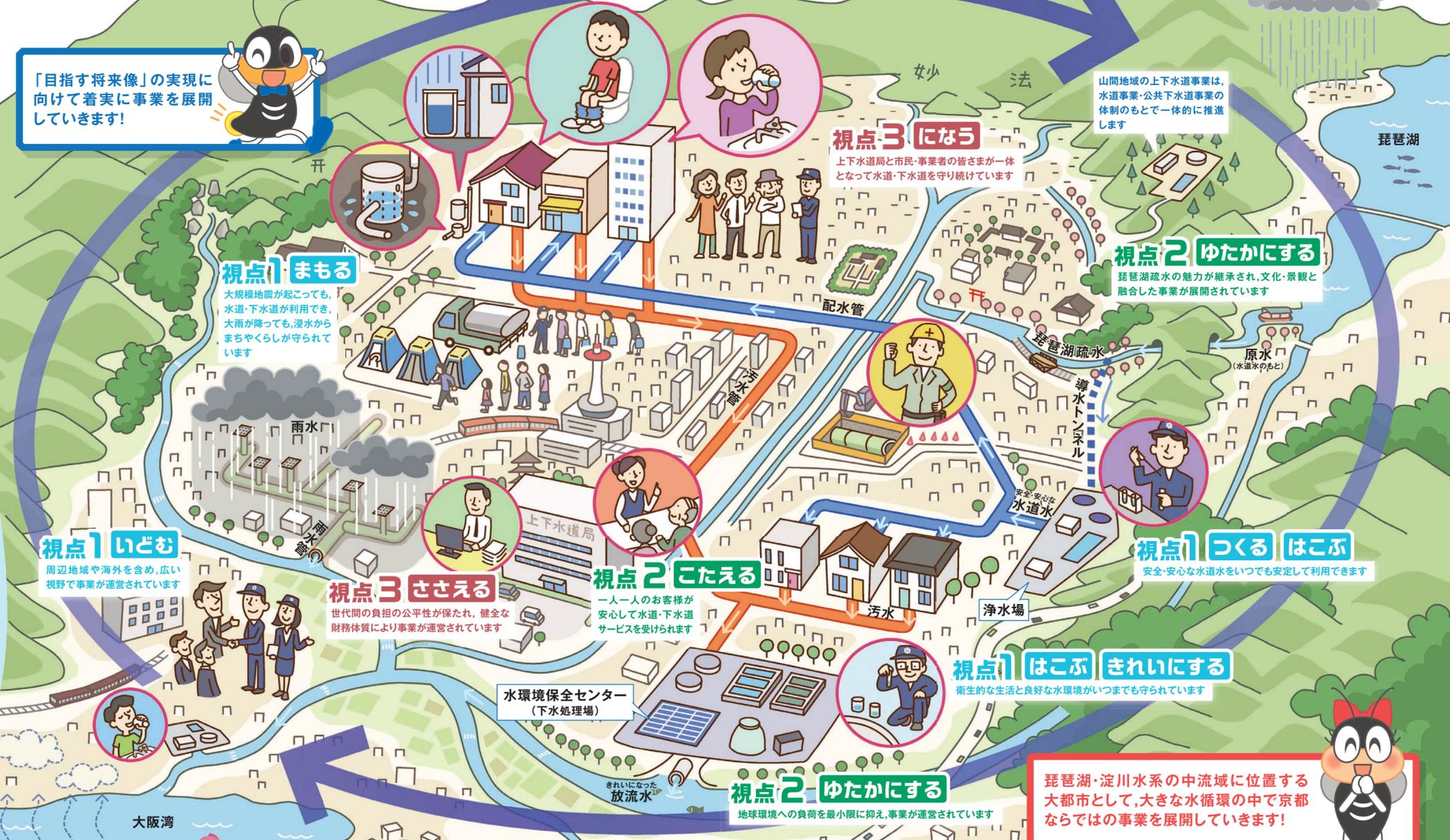
新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

新技術の調査・研究に加え、府内最大規模の事業者として、広域化・広域連携におけるリーダーシップを発揮するなど、広い視野で挑戦を続けます

北部エリア
本業庁舎
(2017年7月開庁)

南部エリア
本庁舎
(2022年度)

3つの視点から目指す将来像



視点2 京の水で 未来をはぐくむ

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

インターネットを活用した新たなサービスの展開

戦略的な広報・広聴活動の展開

次代を担う子ども達を対象とした広報活動

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

琵琶湖疏水の魅力向上・発信

通船事業の本格化
琵琶湖疏水記念館のリニューアル

下水道資源の更なる有効活用

固形燃料
下水汚泥を固形燃料化し、火力発電等で有効活用します。

視点3 京の水を 未来につなぐ

方針① になる

これまで培ってきた技術をしっかり継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

太秦庁舎敷地内に完成した水道技術研修施設では、事業者の皆さまの研修の場として活用するほか、市民の皆さまの見学受入れも行います!

体験型研修施設(水道技術研修施設)

上下水道局職員の育成はもとより、市民や水道・下水道に携わる事業者の皆さまとのきずなを強め、水道・下水道を守り続けます。

方針② させえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

【公共下水道事業】事業費及び収入の推移と見通し

更新時期が到来!

50年以上経過
【事業の継承期間が50年】

400~500億円規模の事業費

収入(有収汚水量)は減少

更新時期が到来!

事業費を段階的に増加させていく必要がある

業務執行体制の効率化など絶え間ない経営努力を進めるほか、長期的な視点に立った取組として、今後の下水道の大規模更新に備え、積立金を確保します。

管路や施設等の更新のために、**今後10年間で400億円の利益を確保する必要があります!**

管路や施設の更新を進めるに当たっては、将来世代に負担を先送りしないよう、企業債(借金)に過度に依存せず、更新に充てることができる利益を確保することが大切です。今後10年間で、水道・下水道でそれぞれ200億円の利益が必要となり、厳しい経営環境の中でもしっかりと確保できるように、絶え間ない経営努力を進めます!

「中期経営プラン」(実施計画)に 基づき、各取組を しっかりと進めます!

10年間の計画(ビジョン)と合わせて、前後期各5箇年の実施計画を策定し、年次計画に基づく着実な事業推進と、絶え間ない経営努力による経営基盤の強化を進めます。

職員定数の削減
効率的な事業運営

60億円の
収支改善

今後5年間(2018-2022)は
水道料金・下水道使用料の
水準を維持して事業を推進!



京都市上下水道局
マスコットキャラクター
ホタルのひかりちゃん



皆さまと一体となって 京都市の水道・下水道を守り続けます

厳しい経営環境の中では、市民や水道・下水道に携わる事業者の皆さまとの連携がこれまで以上に重要になります。
そのため、防災・危機管理対策や技術継承など幅広い分野での連携を通じて、
私たち上下水道局と共に京都市の水道・下水道を守り続けていただきますよう御理解と御協力をお願いします。



京都市総合防災訓練の様子



飲料水の備蓄

災害時には1人1日3ℓ必要!



計画の詳細はこちら!

